

令和2年度 第1回 淀川区子ども教育会議 議事要旨

日時 令和2年8月20日(木) 19:00~20:30

場所 淀川区役所 5階 501・502 会議室

出席者 委員：板谷 勉 氏

佐々木サミュエルズ 純子 氏

城野 信一 氏

壽榮松 正顕 氏

久松 智子 氏

| | |
|-------------------|--------|
| 事務局：淀川区担当教育次長(区長) | 山本 正広 |
| 淀川区教育担当部長(副区長) | 中喜多 孝之 |
| 淀川区教育担当課長 | 井上 徳久 |
| 淀川区教育担当課長代理 | 佐多 隆彰 |
| 教育政策課担当係長 | 岡田 征憲 |
| 教育政策課担当係長 | 澤田 眞理子 |
| 教育政策課担当係長 | 石田 猛裕 |
| 淀川区中学校長会(十三中学校長) | 屋島 豊市 |
| 淀川区小学校長会(西三国小学校長) | 福井 淳也 |

傍聴：1名

- 資料1-1 (小学校) R1 運営に関する計画 区から依頼した取組の評価結果【ヨドネル】
- 資料1-2 (中学校) R1 運営に関する計画 区から依頼した取組の評価結果【ヨドネル】
- 資料1-3 (小学校) R1 運営に関する計画 区から依頼した取組の評価結果【淀川漢字名人育成計画】
- 資料1-4 (中学校) R1 運営に関する計画 区から依頼した取組の評価結果【淀川漢字名人育成計画】
- 資料2-1 (小学校) R2 運営に関する計画 区から依頼した取組の反映状況【ヨドネル】
- 資料2-2 (中学校) R2 運営に関する計画 区から依頼した取組の反映状況【ヨドネル】
- 資料2-3 (小学校) R2 運営に関する計画 区から依頼した取組の反映状況及び実施計画【淀川漢字名人育成計画】
- 資料2-4 (中学校) R2 運営に関する計画 区から依頼した取組の反映状況及び実施計画【淀川漢字名人育成計画】
- 資料3-1 教育行政連絡会での校長意見
- 資料3-2 令和2年度 淀川区役所教育支援担当関係事業一覧
- 資料4-1 淀川区を拠点とした産官学連携による子どもウェルネスによるコミュニティ・デザインの取り組みについて
- 資料4-2 淀川区夏休み子ども相談について

【次第】

司会：淀川区教育担当課長

◎淀川区担当教育次長(区長) あいさつ

◎議題

- 1 令和元年度 各校の運営に関する計画(区依頼事項の振り返り)【公開】
- 2 令和2年度 各校の運営に関する計画(区依頼事項の反映状況)【公開】
- 3 次年度事業に向けたブレインストーミング【公開】
- 4 その他【公開】
 - ・各議題について意見交換

区長あいさつ

- ・新型コロナウイルス感染症について、昨日の段階で大阪府の陽性者が187名と、東京都よりも1名多い状況となっており、今後どれだけの影響が出てどれだけ続くのかが全然見えず、非常に不安ではあるが、いかなる状況にあっても、子どもたちの教育環境を少しでも良くするために力を合わせていかなければならないと思うので、本日も真摯なご議論をお願いしたい。

議題1 令和元年度 各校の運営に関する計画（区依頼事項の振り返り）

議題2 令和2年度 各校の運営に関する計画（区依頼事項の反映状況）

（区より説明）

- ・各校の運営に関する計画への反映を依頼している「ヨドネル」と「淀川漢字名人育成計画」について、昨年度の取組の評価結果と今年度の取組の反映状況及び漢字検定の受検日を学校ごとに一覧にまとめているので、ご報告させていただく。学校の現状としてご覧いただきたい。

議題3 次年度事業に向けたブレインストーミング

（区より説明）

- ・7月13日と14日に、区内の小学校と中学校の校長先生と区役所職員との意見交換として教育行政連絡会を開催し、各々次年度事業に向けた意見をいただいたので、ご紹介する。
- ・小学校長からは、特別支援教育サポーターや補習充実事業は維持してほしい、人が足りない実情があるため区役所と人材に関する情報共有ができればよい、講師や学力サポーターだけではなく、心理・医療など教育だけではない専門性を持つ方にアドバイスをいただけるとありがたい、との意見をいただいた。
- ・中学校長からは、ヨドネルの取組に発展性を持たせてほしい、漢字検定は継続的にお願いしたい、学校現場が困っているところに淀川区独自の学力向上プロジェクトを構築してほしい、可能であれば淀川区規模で、不登校支援のために適応指導教室や教員を配置し学習支援を行い、出席認定もできるようになれば、子どもにとっても親にとっても明るい希望が持てる、また、淀川区の中でフリースクールと連携しながら支援体制がとれば安心もできる、といった意見をいただいた。

（意見交換）

【小中学校のオンライン授業について】

- 首相の休校宣言から6月頃までの休校期間中、基本的に子どもはいっぱいプリントをもらって解くということをしていた。最初は仕方ないとも思うが、普通に考えれば、秋冬に第2波、第3波がやってきた時に、休校にならざるを得ない状況が必ず発生すると思うが、単にプリントを配って問題を解かせるだけでは非常にまずいと思うし、恐らく学力の格差がかなりつくことになり、全体としても子どもの学力が上がるわけがない。教育行政連絡会の議題にもあがらないのはおかしいと思うし、何も手を打たないことはあり得ない。ある程度対面で会話をしないと、理解は進まない。生徒の学びが一番重要なので、ぜひとも小学校、中学校でオンライン授業を導入する動きを始めてほしい。

⇒区より

オンライン授業をするための環境整備がまず必要となる。当初大阪市では4年間かけて、小学校1年から中学校3年までに対し「1人1台端末」の環境整備を実施する予定だった計画を今年度中に前倒して、85億7,800万円の補正予算を組み、約16万台のタブレットを購入する予定。家庭での環境整備については、インターネット環境のない家庭も相当数あることから、ルータの貸与などを通じ、今年度約10億の補正予算をかけてオンライン授業ができる対策も同時に講じる。学校では今年7月4日から8月7日までに、市内の小中学校で各6校、合計12校のモデル校において、家庭の端末・通信回線を活用する児童生徒と、学校の端末・通信回線を活用する児童生徒に分かれて、同時に双方向通信を活用したオンライン学習を試行実施した。結果、順調にいった学

校もあれば、課題が出た学校もあると聞く。

⇒校長より

- ・中学校では、マイクロソフト社が提供している Teams を活用し、生徒全員に ID とパスワードを配付済。コロナの休校中に、教員全員で生徒役と先生役に分かれ試験的にやってみるなど研修会を実施し、今後休校になった場合は、双方向で子どもたちとやりとりできる環境が準備できている状況だが、教員全員が Teams を利用できる環境にないことや家庭で無制限の Wi-Fi 環境がない生徒も多いことなど、環境整備が伴っていないなど課題も多い。そういう中で、YouTube を使って授業を行った際は、実際の授業として扱うのではなく、見る環境のない生徒に対してはその情報をすべて CD に取り込むなど、見せる機会を与えることで、公平性を保った。ようやく実態調査し、予算立てされたところなので、9 月末までには 3 年生を中心に接続状況を調査し、卒業までに未履修とならないよう準備しているところだ。
- ・小学校では、ハードの面で現状 100% の双方向のオンライン授業はできない状況だが、だからといってやらないのではなく、単方向でも進めていこうと努めている。1 学年が一緒に集まることすらできない状況のなか、端末がすべてそろえるのを待つのではなく、今できることを少しずつやっけていこうと進めている。通達では、すべての学校で 9 月中に Teams の接続テストを行い、10 月末までにオンライン授業のテストをすることとなっている。1 学期にオンライン終業式を試みたが、5 分の講話を撮影するにも 1 日がかかりとなる状況であったため、早く準備を進め、少しずつノウハウを積み重ねていく必要があると感じている。学校現場にある機材を最大限活かし、ほんの少ない短い時間であっても、必ずオンラインで対面式を再現できるように工夫していきたい。ただし、今は非常に脆弱なネットワーク環境のもとでやっているため、全生徒が一度にオンライン授業に入ることは絶対に無理。20 人ずつとか児童を細分化しながらテストしていきたい。

○校長先生の話の伺い、かなり安心した。両方が環境を作るのはかなり難しく、ネットワークや回線の問題もいろいろあると思うが、できるところからどんどんやっていくのは、本当にベストだと思う。

○紙ベースの学習では、確実に子ども達の学力の格差が出たと感じる。

○特に低学年のお子さんや、もっと小さいお子さんがいる家庭で、親御さんが子どもをカメラの前に座らせておくのがつらく、お手上げの状態になることがある。低所得で環境がないからということではなくて、まだ子どもに手がかかるからという理由で、学習もしくは学習を受ける機会を確保する点で格差が出てくると思う。お家でオンライン授業を受けるということだけでなく、可能であれば、保健福祉センターやどこかの場所で安心できる大人が子どもにつき、オンライン学習をサポートするようなことができれば、とても画期的だと思う。

○タブレットの Wi-Fi 環境を作るときに、職員室側の容量を超えてしまう気がするし、問題は山積していると思う。

⇒校長より

おっしゃるとおりだ。8 時半から 15 時半ぐらいまで授業をする想定は、現実的ではない。今から試験をすることであるが、例えば 45 分授業でも、15 分刻み位で細分化することも検討中である。家庭の学習環境、家庭とのつながり方も様々なので、家庭内のすべてが画面の背景に映し出されることへの配慮も必要。学校ごとにオリジナルにカスタマイズしながらやっけていく必要があると思う。

○環境を整えていただき、公立学校の良いところを活かして行ってほしいと思う。行政には、先生方のやりにくい状況が改善されるようお願いしたい。

【発達障がいサポーターについて】

○特別支援ということで、発達障がい認定されていないためにサポーターが見つからない子どもたちを助けることはできないのか。検査を受けていない子も非常に多い。発達障がいの子どもを見極めるのは難しいと思うが。

○発達障がいの傾向のある子どもに対して自然な形でサポーターを補充できるように、フリーランスというか、そういうサポーターの方が淀川区の各校を回るような形をとれないのか。

○発達障がいの子どもが授業中に騒ぐことが原因で、実際に区内小学校では授業崩壊が起こった。PTA から何度もサポーターを入れてほしいと学校に依頼したが、聞き届けられず、何もサポートがないまま、結局、真面目に勉

強している子どもたちが授業を脱走したことがある。クラスの保護者にとっては非常に深刻な出来事だった。その後もPTAは校長や教頭と連携しながら見守ってはいるが、保護者がべったりつくこともできないし、その辺のバックアップを区役所にお願いしたい。

⇒区より

非常に大きな課題だと思う。発達障がいの原因で授業についていけず、本来得るべき能力が得られないためにいじめにあったり、道を踏み外してしまった子どもたちが非常に多く、この子たちをきちんと見つけ出して、サポートできればいいのにとということが書かれた話題の本があったが、今非常に大きな問題だと思う。しかし、学校に入ってもらうには、相応の責任を持てる人材でないといけないといった課題もある。国レベルでもできていないことを淀川区で完璧にすぐできるとは思わないが、何か少しでもできることはないか、担当と一緒に考えていきたい。

【不登校の生徒に対する支援】

○不登校の子は多分昼間が苦手なので、学校の門を開けておいて、夕方頃からこっそり入ってこっそり出ていけるよう、別教室を設け学習を教えるようなことから始めてみてはどうか。昔と違って今は、家庭環境や精神的なものなどいろいろな意味での不安材料を抱えて不登校になるケースが多いように思う。セキュリティの問題や学校の先生の働き方改革との兼ね合いも考慮しながら、時間の許す限り少し遅めの時間をとって、ゆっくり進めてあげるとよいかと思う。

⇒校長より

門が別にあり、他の生徒と接触しない状態で部屋に入ることが出来るミーティングルームを、不登校の子が来れる場所として提供するのはやぶさかではないが、誰がそこにつくのかという問題がある。昔は授業数ゼロの生徒指導主事加配というのがあり可能であったが、今はないので、そこにずっと教員がつくことは無理だ。もし、淀川区でそういうことができれば、将来引きこもりの社会人を少しでも減らせるのかなと思う。

○中学校の3年間、学校に行けないということは、その子の人生にも家族にも大きな影響を与える。学校の先生が不登校支援をやっていただくのがベストだが、ハードルが高いのであれば、旭区の子ども自立アシスト事業と同じように、淀川区でも予算をつけてNPOさんと連携して適応教室を作っていただけるとよい。

【子どもたちの心のケアについて】

○新型コロナウイルスの影響で1学期、子ども達は友達と会えない状況でほとんど学校に行けず、特に小学校6年生や中学校3年生の子ども達への影響はかなりあったと思う。クラブを頑張っていた子は結果を出す場がなくなり、がっかりしていたり、中学校3年生には受験がある。その点、精神的なフォローはどうされたのか。

⇒校長より

- ・中学校では、部活動に入っている子どもについては秋の総合体育大会を集大成の場所として取組ませているところだが、部活動に入っていない子どもたちの心のケアは課題だ。実際には表面に出ない子もいて、自傷行為に走る子が増加している実態もあり、心配だ。日々の様子から保護者と連携しながら、しっかり子ども達に寄り添っていかなければならないと感じており、家庭訪問などを通じてしっかり目をかけていくよう、教職員には徹底しているところだ。
- ・小学校では、コロナ対策をした上で個人懇談をし、家庭での様子など情報交換を行っている。スクールカウンセラー在任時は、時間のある限り教室を見てもらい、私自身も毎日必ず全部のクラスに行って学級の状態がどうなっているのかを見守っている。下校時、教室に残っている子どもたちに直接担任が話しかけるなどして、ケアをしている。多くの学校行事が実施できなくなったが、2学期以降は100か0かではなく、今まで通りにはいかないけれど、運動会その他の各種行事を縮小してでもやろう、子ども達の心に残るものを作っていこう、モチベーションを上げ達成感を感じてもらおうと、進めているところだ。こうした事情を子どもも理解しようとしてくれている。

○コロナ禍、地域行事もすべて中止となっている今、子どもも大人も思い出という意味ではこの1年が空白となってしまうことが、誠に悲しい。そんななか、学校の方で知恵・工夫をしぼって子ども達の心に残る、記憶に残ることをいろいろ考えてしていただくことは、非常にありがたいし、ますますよろしくお願ひしたい。本来は、地域でいろいろ活動する私共としてもすべて中止ということではなく、そういう取組をすべきだと思うが、やはり自分たち開催する側の責任に力点がいきまいて、尻込みしてしまうというのが実態だ。今後、事例を見ながら工夫して何かしていけるかもしれないが、その際には参考にさせていただきたい。

○学校で手の消毒液が購入できないと聞くが、そういうことが起こらないようにしていただきたい。

⇒区より

以前、指定業者以外からは購入できないというルールがあったが、緊急事態宣言が発出されてからは、そのルールが解除され、ネットでも購入できるようになった。そうしなければ、安全が確保されないからという理由だが、今も解除されている状況だとしてご理解いただいてよい。

議題4 その他

【淀川区を拠点とした産官学連携による子どもウェルネスによるコミュニティ・デザインの取り組みについて】

(区より説明)

- ・淀川区を拠点とした産官学連携による子どもウェルネスによるコミュニティ・デザインについて、7月20日から取り組みを開始している。
- ・睡眠習慣改善支援事業「ヨドネル」の研究で淀川区と連携している大阪市立大学の水野先生による定義では、「子どもウェルネス」とは「精神的にも身体的にも健康な状態ということだけでなく、子どもたちがもっと前向きに、生き活きと、意欲的に充実した日々を過ごし、多様な脳の機能・能力・個性・知性・感性や社会性などの創造性豊かな世界観を育む幅広い概念」のことであり、淀川区と大阪市立大学との共同で子どものウェルネス向上をめざし文部科学省の「DESIGN-i」という事業に応募したところ、採択された。今年度に限り、国の補助金を受けて事業実施することとなった。
- ・水野先生が座長を務める子どもウェルネス創出事業化コンソーシアムという企業体を中心に、現参画企業7社に加え京都大学の協力も得て、民間企業の活力を生かし取り組みを進めていきたい。
- ・当事業の目標は、子どもたちの基本的な生活リズムの乱れに大きく関係する睡眠、食事、運動といったウェルネス要素の理解を深めるとともに、感性・知性へのアプローチにより、多様な角度から子どもウェルネスの向上を目指すことであり、淀川区を拠点に子どもたちと保護者を主役としたリビングラボというイベントを実施しながら、ヨドネルの取組を発展させ、この取組を進めてまいりたい。
- ・今後は各企業の強みを生かしたプログラムを実施する予定であり、その第1弾として8月23日と24日に梅田スカイビルにある絹谷幸二天空美術館でアートラボ（美術鑑賞）を開催する。対象は小学4年生から中学3年生。現時点で39組、74名の申込があり、新型コロナウイルス感染症防止対策に配慮し、安全性を確保したうえで開催する予定である。ご関心があれば、皆様もご検討いただきたい。

【淀川区夏休み子ども相談について】

(区より説明)

- ・長期休業明けに不登校などの事案が起きやすいと言われていたことから、夏休み期間中に子ども向けに特化した相談窓口を臨時開設する。
- ・対象者を淀川区内の小学生、中学生、高校生とし、本日20日、明日21日は区民センター、来週の24日は区役所の会議室で、10時から12時、14時から16時に開設する予定である。